



## リサイクルQ&A

●今回は役場に寄せられる悪臭被害の  
問い合わせを紹介します！



Q: 畑にまいた畜産フン尿(牛フン・豚フン・鶏フン)の悪臭がするのですが？



A: 農作物の作付け目的で畜産フン尿をまいた場合は、ただちに耕うんすることになっています。



畑に肥料としてまいた場合は、すみやかに耕うんして臭気がしないよう注意しましょう!!

- 法律により家畜フン尿やたい肥の野積み・す掘りは禁止されています。
- 最近、畜産フン尿のまきっ放しやたい肥の野積みの苦情が多く寄せられています。  
地域の生活環境が損なわれることのないよう悪臭の防止に努めましょう。

《問い合わせ先》大崎町役場福祉課環境係 TEL 476 - 1111 内線 133



## 保健師だより

### 『ご存知ですか』

12月2日から5日まで、子宮がん検診・乳がん検診が行われます。対象は子宮がん検診が20歳以上の女性、乳がん検診が40歳以上の女性となっています。

アメリカでは8人に1人が患うという乳がんですが、日本でも急増し、女性の30人に1人が乳がんになるといわれています。罹患率をみると特に30〜40歳代から急上昇しています。本町でも乳がん検診で毎年1〜2人の乳がんが発見されています。乳がんの高危険因子には家族歴、高齢初産の方、出産未経験の方、肥満の方などがあります。現在、町で実施している検査はマンモグラフィといって、乳房専用のX線撮影を行います。マンモグラフィの導入により、乳がん検診の発見率が上昇しており、視触診では見つけにくい無症状のがん(早期がん)が発見されています。

また、月1度は自己触診をしましょう。乳がんは乳房の中にしこりができたり、皮膚にえくぼのようなくぼみができたり、乳頭からの分泌物があったりします。これらを調べるのが『自己触診法』です。毎月、月経終了の1週間後ぐらいに、また閉経した方は毎月、日を決めて調べましょう。もし、異常があったら、医療機関で調べてもらうことが必要です。

子宮がんは、約30年前までは、女性では胃がんに次いで2番目に多い

がんでした。しかし、子宮がん検診の普及や啓発により徐々に減少してきています。しかし、年代別に見てみると、20〜24歳では2倍に、25歳〜29歳では3〜4倍に増え、若年者の子宮がんが増加しています。これは子宮がんのうち、子宮の下部にできる『頸がん』が、性交渉で感染するヒトパピローマウイルスと関係があるといわれており、若年者ではこの頸がんが増加しています。この他にも妊娠・出産回数が多い方や喫煙される方なども高危険因子になっています。町で行う検診は、頸がん検診になります。がんが発生しやすい部位の細胞を綿棒でとって調べます。子宮の上部にできる『体がん』は、不正出血での発見が約90%といわれており、少量でも出血があったり普段と違うおりものがあれば、すぐに医療機関を受診してください。

年に1度の検診で、早期に発見して治療につなげればかなりの確率で治癒できるがんです。ぜひ、この機会に受診してください。



健康に関する相談は、保健センターへお気軽にどうぞ TEL 476 - 1111 (内線 146・147)